



佐賀大学教職大学院 院生ライフレポート



いよいよ2020年の幕開けが近付いてまいりました。2019年はどのような1年だったでしょうか。

さて、今月は通常の教職大学院の授業だけではなく、「佐賀県教育フェスタ」「学び続ける教員セミナー」等、学内外の研修会への参加を通して、多くの学びを得ることができました。ここでは、それらの学びの様子を一部お伝えします。

1. 佐賀県教育フェスタ



私たちはこれまで、「ICT 利活用教育の基礎と課題」という講義を通して、ICT 利活用の理論について学んできました。そして、今回参加した「佐賀県教育フェスタ」では、佐賀県内の先生方の ICT を用いた実践発表を聞くことができました。まさに理論と実践の往還の内容でした。今後更に ICT の環境整備が進む中、佐賀県の教育に携わる自分自身のあり方を考える良い機会になりました。また「さがを誇りに思う教育」推進の一環として高校生 ICT 利活用プレゼンテーション大会も同会場で行われました。高校生の柔軟な発想に感心すると同時に、これまで知らなかった佐賀県の

魅力に気づき、より一層佐賀県への愛が深まったように思います。

2. 学び続ける教員セミナー

働き方改革が進む中、教員の資質・能力の向上にどのように取り組むのかについて兵庫教育大学教職大学院川上泰彦先生をお招きして、ご講演をいただきました。その後、5人1組でテーマや講演の内容を基に、意見交換を行いました。その中で研修（研究と修養）の本来の意味を再確認し「真の研修を行うには、実践を常に疑う」ことや「若手教員も意見を出せるような環境づくりが必要」といった意見が活発に出ました。特に、ストレートマスターにとっては、現場の先生方と交流する貴重な機会となり、多くのことを学ぶことができました。



番外編 忘年会



M1, M2, 先生方の多くのご参加をいただき、忘年会を開催しました。会では、今年の重大ニュースや院生生活を詠んだ川柳などの余興もあり、大変盛り上がりました。M2の先輩方や先生方と教育談議に花が咲き、楽しいひと時を過ごすことができました。先輩方と大学院で過ごすことができるのもあとわずかです。まだまだ学ぶことは多く、少しでも有意義な時間を共有できればと思います。それでは皆さん、新年も実り多き年にしましょう！